土曜日教育支援　実践事例集

子どもたちの豊かな学びのための土曜日の教育環境づくり

～「土曜日ならでは」の多様なプログラムづくり～

～“あったらいいな”を実現する夢の教育～

岡山県生涯学習センター

平成２７年３月

はじめに

学校週５日制が完全実施され、１０年余りが経過し、各地域において休日に様々な教育支援活動が行われています。しかし、土曜日に様々な経験を積んでいる子どもたちが存在する一方で、必ずしも有意義に過ごすことができていない子どもたちも少なからず存在するとの指摘もあります。

こうした状況を踏まえ、より一層学校・家庭・地域が連携し、役割分担しながら、土曜日の教育環境を豊かなものにしていく必要があります。

国においては、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現するために「土曜日の教育活動推進プラン」が平成２６年度から実施されており、本県においても土曜日等（日曜日、祝日、長期休業を含む。）に、各地で多様なプログラムが企画・実施されています。

そこで、県内の好事例をまとめ、広く情報発信し、社会総掛かりで土曜日の教育支援を推進する機運を高めることをねらいとした本事例集を発行しました。作成に当たっては、多様なプログラムの紹介とともに、実践の際のポイントがわかるように、各事例の成功要因を整理してまとめました。

本事例集がきっかけとなり、地域の資源を有効に活用した多様なプログラムが実現され、子どもたちの豊かな学びのための土曜日の教育環境づくりの一助となれば幸いです。

終わりになりましたが、市町村教育委員会の皆様をはじめ、コーディネーターやボランティアの皆様、本事例集の作成に当たってご協力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成２７年３月

岡山県生涯学習センター　所長　　岡　本　　啓

目次

1　土曜日教育とは　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

2　「土曜日ならでは」の多様なプログラムづくりに向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

3　実践事例

⑴　久米南町「カッピーわくわくスタディー」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

⑵　和気町「ふるさと料理教室」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

⑶　美咲町「のびのびサタデー」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

⑷　里庄町「里庄町暁天座禅」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

⑸　早島町「はやしま国際塾」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

⑹　矢掛町「夏休み学習会」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

⑺　美咲町「ホリデーわくわく」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

⑻　赤磐市「吉井土曜子ども教室」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

⑼　勝央町「英語で遊ぼう！しょうおうキッズ」　・・・・・・・・・・・・・・・・・23

⑽　笠岡市「大井公民館土曜学習」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

（11）　新見市「みんなで楽しくウォーキング！！」　・・・・・・・・・・・・・・・・・27

4　成功のヒケツの整理　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

5　これからの展望　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

6　資料

⑴　おかやま子ども応援センター「子ども応援人材バンク」　・・・・・・・・・・・・33

⑵　全国の土曜日教育支援・実践事例　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34

※「土曜日教育」

この冊子では、土曜日、日曜日、祝日、長期休業の際に行われる「土曜学習」についての教育支援のことを指します。

※「土曜学習」

教育委員会など学校以外の者が主体となって、希望者に対して学習等の機会の提供を行います。

「学校支援地域本部」や「放課後子供教室」などが主体となって、土曜日の教育活動を行う場合は、「土曜学習」に該当し、原則として市区町村教育委員会等（高等学校や特別支援学校の場合には都道府県等）の責任の下、学校や地域、企業等との連携により行われるものとなります。

※参考資料：中央教育審議会生涯学習分科会今後の放課後等の教育支援の在り方に関するワーキンググループ最終取りまとめ「子供たちの豊かな学びのための放課後・土曜日の教育環境づくり」について、平成２６年度

１　土曜日教育とは

すべての子供たちの土曜日の教育活動の充実のため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力により、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する取組を支援し、教育支援体制等の構築を図る取組です。

図１：文部科学省「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」資料（一部抜粋）

文部科学省は、平成 26 年度から委託事業「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を実施しています（図１）。岡山県では、１３市町が委託を受け、事業に取り組んでいます。

○土曜日の教育活動の理念

土曜日における教育活動の理念については、文部科学省に設置された「土曜授業に関する検討チーム」において、平成２５年９月に、次のとおり整理されています。

- 学校、家庭、地域の三者が連携し、役割分担しながら社会全体で子供を育てるという理念は、普遍的に重要である。
- 学校週５日制は、このような基本理念を踏まえて導入されたものであるが、一方で、土曜日を必ずしも有意義に過ごせていない子供たちも少なからず存在するとの指摘がある。
- 子供たちにこれまで以上に豊かな教育環境を提供し、その成長を支えることができるよう、学校、家庭、地域が連携し、役割分担しながら、学校における授業や地域における授業や地域における多様な学習、文化、スポーツ、体験活動等の機会の充実に取り組むことが重要である。

○土曜日ならではの特徴や教育効果

土曜日には次のような特徴や教育効果があるといわれています。

▽多様な人材の参画が可能

土曜日には、平日には参加が難しい現役の社会人を含め、保護者、地域や企業の多様な人材が参画することが可能であり、実社会の経験や生活体験を踏まえたプログラムが可能となる重要な日といえます。

▽多様な集団の形成が可能

学習集団としても、学校の学級単位等だけでなく、異学年や異学校種も含めた多様な集団を形成することが可能であり、学習等のプログラムの内容等に応じた効果的な工夫がなされることが期待されます。

▽多様な場所の活用が可能

実施場所についても、学校施設だけでなく、地域の公民館、図書館、博物館、体育館等の社会教育施設や、児童館、企業が有する施設など、多様な場所を活用することが可能で、子供たちの学校での学びが深まり、豊かな体験につながります。

▽社会総掛かりによる体制づくり

土曜学習においては、子供だけでなく、保護者や地域住民とともに学べる機会とすることも可能であり、これにより、子供たちの学びや育ちに関する保護者や地域住民の理解が促進され、学校・家庭・地域の連携・協働により、社会総掛かりで子供を育む体制づくりが推進されることが期待されます。

○土曜日の豊かな教育環境の実現に向けた具体的方策

中央教育審議会生涯学習分科会では次のような提案がされています。

（１）多様な主体が土曜日の教育活動に参画する仕組みづくり

◇土曜日は、日頃参加が難しい現役の社会人も含め、地域人材や保護者、企業、NPO、民間教育事業者、大学生等の多様な人材の参画が可能である。
◇実社会の経験も踏まえたプログラムの展開に向け、多様な人材が教育活動に参画する仕組みづくりを推進する必要がある。

① 地域人材の参画促進
- 豊かな社会経験や指導力を持つ多様な人材の参画促進

② 保護者の参画促進
- 働く保護者の参画しやすい仕組みの構築
- PTA、おやじの会等の活用

③ 企業・団体等との連携協力促進
- 学校の要望と企業の取組のマッチング
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 企業人材に対する研修の充実
- 企業の退職者組織との連携
- 企業内ボランティア登録制度やCSR（企業の社会的責任）、プロボノ（社会人が自らの専門知識や技能を生かして参加する社会貢献活動）として関わる仕組みの構築

④ NPO・民間教育事業者との連携協力の促進
- NPOのノウハウ（人材や資金のコーディネート能力）の活用
- 学習塾、お稽古ごと、スポーツ、音楽、語学教室等の指導者の活用

⑤ 大学等の連携協力の推進
- 研究者やポストドクター等の専門人材の活用
- 教育・福祉、スポーツ等の専攻の学生の積極的な参画促進
- 身近なロールモデルとして学生が持続的に参画できる仕組みづくり

（２）学校と地域・企業・大学等をつなぐコーディネート機能の充実

◇学校と地域をつなぐコーディネーターだけでなく、企業や大学等の多様な主体をつなぐコーディネーターが必要である。
◇コーディネーターの研修の機会やネットワーク組織等の充実が必要である。

- 地域連携を担当する教員の配置や、「地域コーディネーター」、「企業コーディネーター」等をそれぞれ配置し、互いに連携し合う仕組みの構築
- 学校や地域の関係者、企業、企業の退職者組織、NPO等多様な関係者が学び合う研修機会の充実　等

（3）「土曜日ならでは」の多様なプログラムづくり

◇体系的・継続的なプログラムの基本的な考え方

- 「土曜日ならでは」の生きた学習等のプログラム
- 子供たち自身の意欲や参画
- 学校の教育課程と連動した体系的なプログラム
- 継続的に学べるよう、年間を通じたテーマ設定
- その時期に合った話題性や時事等子供たちの興味関心を引き出す柔軟な対応
- 効果を把握できるデータを蓄積

本事例集では、このプログラムづくりに着目し、県内で実施された多様なプログラムの紹介とともに、各事例の成功要因を整理いたします。

2　「土曜日ならでは」の多様なプログラムづくりに向けて

中央教育審議会生涯学習分科会では、プログラムづくりの４つの視点を提案しています。

（1）実社会につながるプログラム

〇生きた経験
〇力を試す経験や大人と協働して取り組む経験ができるプログラム
〇プログラムを子供自らが企画し、運営等を担う経験
〇様々な分野の本物に出会う機会

- 教育の一つの目的を子供の自立と捉えると、実社会で役立つ経験をたくさんすることが重要であり、地域や社会の中で生きた経験をすることが子供たちの豊かな育ちにつながります。
- 地域等においては、多様な体験プログラムが提供されているが、与えられたプログラムを子供がこなすという受動的なものではなく、子供たちの主体性を引き出し、社会で力を試すような経験や地域課題に大人と協働して取り組む経験をたくさんできるプログラムであることが重要です。
- プログラムを子供自ら企画し、運営等を担う経験をするなど、子供が持っている力を発揮する機会を創造することにより、主体性や企画力、創造性等が培われ、「自ら考え、判断し、表現する力」といった、いわゆる「生きる力」が育まれる機会となることが期待されます。
- 小学校・中学校段階から、地域や企業等で活躍する社会人に出会うことにより、将来の目標を持って学ぶきっかけとなるよう、多くのロールモデルに触れる機会をつくることが重要であり、様々な分野の本物に出会う機会を通じて、本物のすばらしさや仕事の喜びや厳しさなどが感得されることも期待されます。

（2）企業のリソースを生かしたプログラム

〇実社会の知識・経験に裏付けられたプログラム
〇業務にもプラスになるプログラム
〇それぞれの企業リソースを生かしたプログラム
〇企業が開発した教材

・企業等においては、学校内や教職員だけでは教えることが難しい、実社会の知識や経験に裏付けられたプログラム、教育課程の単元のねらいと合致したプログラムの提供が期待されます。
・ボランティアやＣＳＲ（企業の社会的責任）としてのプログラムだけでなく、業務にもプラスになるプログラムであることが、企業にとっても、子供たちの本気を引き出す上でも重要です。
・企業の取組事例として、その企業の特性を生かし、環境教育、キャリア教育、理科教育のプログラムを開発している例や、経済団体による出張授業では、働くことの意義、学ぶことの大切さ、これからの社会で求められる力、社会の仕組み、国際理解・グローバル化などのテーマを中心に実施している例があるなど、それぞれの企業リソースを生かしたプログラムが展開されています。

（３）学習意欲・習慣の形成につながるプログラム

〇学習意欲の向上や学習習慣の形成が図られるようなプログラム
〇就学前の子供対象のプログラム
〇補充的・発展的学習の充実

・土曜日の教育活動の推進に当たっては、子供たちが学ぶ楽しさや学ぶ意義を感じ、学習意欲の向上や学習習慣の形成が図られるようなプログラムが展開されることが重要です。
・その一つの方策として、小学校入学段階から、新たな集団生活に順応し、豊かな学習や学校生活を送ることができるよう、就学前の子供を対象として、小学校等を活用して、平仮名の読み書きや読み聞かせ、集団遊びなどのプログラムを、例えば親子参加のもとで実施していくことも考えられます。
・就学前の段階から、学校等で行う教育活動に親子で参加する経験をすることは、保護者にとっても、他の保護者や子供たちとの触れあいを通して、保護者同士の学び合いが生まれ、地域の大人として育っていくことや、学校への理解につながり、家庭教育支援の観点からも重要です。
・学校での学習の理解が必ずしも十分でない子供たちを対象として、例えば、振り返り学習プログラムを実施し、学ぶ楽しさやわかる喜び、学ぶ意義を感じることや、学習が進んでいる子供たちを対象として、発展的な学習を実施し、創造性や企画力を養うといった、補充的・発展的学習の充実を図ることも考えられます。

（４）「地域ならでは」のプログラム

〇各地域が「地域ならでは」の特性を生かし、自立的に教育活動を進めること
　▽「ふるさと教育」などの地域の特性を生かしたプログラム
　▽「学力向上」などを目的としたプログラム
　▽特定のテーマに限定しない多様なプログラム
　を実施するなど、地域の実情に応じたプログラムを展開

・都市部と地方部では課題やニーズ、地域資源も多様であり、全国一律でなく、各地域が「地域ならでは」の特性を生かし、自律的に教育活動を進めることが重要です。地域の「どのような子供たちを育てたいのか」という目標を踏まえ、「ふるさと教育」などの地域の特性を生かしたプログラムや、「学力向上」などを目的としたプログラム、特定のテーマに限定しない多様なプログラムを実施するなど、地域の実情に応じたプログラムを展開することが重要です。
・地域間格差によって子供たちの学習機会の格差が生じないよう、ＩＣＴの積極的な活用等により、「届けるプログラム」の充実を図るなど、全国どこでも学ぶことのできるコンテンツと支援体制の充実などが求められます。

プログラムづくりに当たって

土曜日は、実生活や実社会とのつながりを体験的に学ぶ機会として、多様性・柔軟性等を生かした工夫が可能な時間です。その工夫がよりよく生かされるようなプログラムづくりをしていきましょう。プログラムづくりに当たってのポイントを挙げます。

○学習のねらい・目指す子どもの姿を話し合う

- 子どもたちが「できるようになること」「変容すること」を具体的に話し合います。
- 「目指す子ども像は聞き飽きた」というくらい何度も共有を図りましょう。

○プログラム（タイトル）名を決める

- タイトルは重要です。内容がよく表れている、インパクトのあるものにしましょう。

○対象を決める

- 学習のねらいや内容に合った対象にします。例えば、小学生全学年にするのか、ある程度焦点化するのか。その対象によって目指す子ども像や内容も異なってきます。

○内容を決める

- ねらい（目指す子ども像）と手立てが対応するように意識します。
  「○○できるように□□する」と表記するとわかりやすくなります。
- 子どもや地域の方々から意見を聞いて決めることもできます。「だいじなことは子どもに聴け」という言葉もあるようです。いろいろな場面で有効であるはずです。
- 毎年行っているプログラムであれば、ちょっとした新たな工夫を加えることも必要です。
- 必要に応じて、他県や県内の事例を参考にしてみましょう。

○講師・連携先を決める

- 内容にふさわしい講師、連携先を決めます。若者の参画も有効です。子どもたちにとって、大学生などの若者は年齢が比較的近く身近で接しやすいロールモデルとしての効果が期待されており、教育などの分野を志望する学生にとっても、その専門性を生かしたり、学生自身の将来の仕事につながる貴重な体験の場となっています。

○学校教育とのつながりを考える

- 学校教育とのつながりがある内容ならばどのようにつながりをもたせるかが重要です。例えば、発展的な内容で学校では扱わない内容を実施するなどの取組はとても有効です。

○参加者間のつながりをつくる

- プログラムに参加者間のつながりをつくる場面があれば、地域づくりの観点からも望ましいことです。例えば、作った料理を共に食べる、感想を紹介し合うなどです。

○評価の方法を決める

- 参加者に対するアンケートなどプログラムの評価の方法を決めます。アンケートをとる場合はしっかりと記入できるだけの必要な時間を必ず確保することが大切です。

○広報の仕方を決める

- チラシ、ホームページ、Facebook、ＬＩＮＥ、新聞、テレビ（ケーブルテレビ含む）など有効な方法をとりましょう。

プログラムづくりチェック

プログラムをつくる際に、チェックしてみてください。

- ☐ 学習のねらい・目指す子どもの姿は明確である
- ☐ プログラム名は興味をひくものになっている
- ☐ 対象に合った内容である
- ☐ 子どもの参画がある
- ☐ 効果的な講師・連携先である
- ☐ 学校教育とのつながりがある
- ☐ 参加者間のつながりをつくっている
- ☐ 適切な評価をしている
- ☐ 広報の仕方が適切である
- ☐ 他県や県内の事例を参考にしている
- ☐ 新たな工夫を加えている
- ☐ 担当者の思いがつまっている

当たり前のことですが、プログラムをつくるのは「人」です。
そこにはその人の思いがつまっています。
逆に言うと思いがなければプログラムはつくれません。
それぞれの立場での自分の「思い」を
どうぞ思いっきりつめこんでください。
自由度の広い土曜日教育では特にそれが可能であるはずです。

熱い

いろいろな役割の人の「思い」がプログラムづくりに反映されます。

よりよい

３ 実践事例（１）

久米南町 カッピー わくわくスタディー

成功のヒケツ①

ボランティアと教職員と市町村担当者の連携 久米南町子ども応援運営委員会

本事業を進めるに当たって、ボランティアと学校と市町村担当者が連携して進めることにより、活動内容や目指す子ども像などの基本的な事項の共通理解を図って進めることができています。

主に関わっている方々は次のメンバーです。

校長、教頭、教職員、ボランティア、久米南町教育委員会教育課・指導主事（担当者）

成功のヒケツ②

ボランティアが関わることによる自己肯定感の向上

子どもたちはボランティアという教職員以外の外部の人と接することにより、ほめられることで自己肯定感を高められます。

先生でも保護者でもない、いわば「ナナメの関係」である外部人材を入れることにより、子どもの意欲は必ずといっていいほど上がります。

また、地域の教育力が上がることが期待されます。

成功のヒケツ③

対象を焦点化、習熟度や一人一人に対応した指導

弓削小学校では参加対象を第２・３学年に限定して行っています。

第２・３学年のうちに基礎・基本を定着させ、学年が進むにつれて内容が高度になってくることに備えようとしています。

対象を焦点化して少人数の学習にすることで習熟の状態に目を向けやすくし、一人一人に可能なかぎり対応できるようにしています。

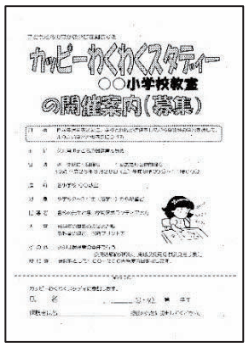
プログラム

【本時の計画】

活動名：カッピーわくわくスタディー　弓削小学校教室（第２回）

１　ねらい・目指す子どもの姿
　第２・３学年児童を対象に、学校と地域が連携をしながら算数科の学習をすることを通して、よりよい学習習慣を身につける。

２　日時　平成２６年６月２８日（土）９：３０～１１：００
＜年間３回＞



３　主催　久米南町子ども応援運営委員会

４　場所　久米南町立弓削小学校　　成功のヒケツ①

５　対象　弓削小学校　第２・３学年児童

６　講師・連携先　各校教職員　各小学校区ボランティア

７　日程・内容・準備物　　成功のヒケツ③

	活動内容	気をつけること	準備物
１	第２学年、第３学年の習熟プリントをする。 成功のヒケツ②	・集中して学習できるように２年生、３年生に分かれて学習を行う。 ・合理的に進められるように、小学校の教職員が学習の進め方の説明をしたり机間指導をしたりする。一方、ボランティアは一人一人に応じた机間指導を行う。 ・積極的に問題を解こうとする意欲を引き出せるように、よくできていることを中心にほめながら進めるようにする。 ・計算問題を含む「迷路」等のプリントも取り入れて、興味をもって活動できるようにする。	プリント ・本日の２年生のプリント９枚（くりあがりのたし算、３つの数のたし算・ひき算、くりさがりのひき算等いろいろな領域） ＜第１学年の復習中心＞ ・本日の３年生のプリント９枚（長さ、時計、３けたになるたし算等いろいろな領域） ＜第２学年の復習中心＞ ・当日のプリント内容は、第２・３学年担任の教職員と相談して決める。

感想

・２年生男子「やったー。できた。」とガッツポーズ。
　児童全員：「この時間勉強になった」と回答。

・教職員：自分の方が教え方の勉強になった。今日は子どもと１対１で関わることができた。子どもが困っている顔、手が止まっている場面を意識して教えることができた。１㎝７㎜＝１７㎜等の間違えやすい問題をじっくり復習することができた。平日と違った子どもの一面が見えるなどプラス面が大きい。少人数のため、いつもと違った環境で自分が普段の授業で気づけなかったことに気づくことができた。

問合せ先：久米南町教育委員会　教育課　0867-28-2711

実践事例（２）

和気町
ふるさと料理教室

成功のヒケツ①
地域の特産品すもも

本事業では地域の特産品すももに着目した活動に取り組んでいます。

和気町はすももの特産地として知られています。すもも１０品種以上が栽培されており、初夏のシーズンはたわわに実った甘酸っぱい果実が観光客を迎えています。

すももはジャムやお菓子などにも加工がしやすく、子どもにも大人気です。

旬の時期に合わせた特産品すももの料理を通して、地域のよさを再発見させ、誇りを持たせることにつなげていきます。

成功のヒケツ②
ふるさと教員の活躍

和気町ではふるさと学習（地域に根ざした独自の教育活動）の推進と、ふるさとを愛する子どもの育成を目的に、和気町ふるさと教員が配置されています。

ふるさと教員は和気町にしっかり根を張り、地域社会に根ざした独自の教育活動を展開する教員としてふるさと学習の中核になっています。同時に、学校教育の充実を目指して地域の優れた人材のネットワークづくりや地域で子どもを育てるシステムづくりに努めています。

また、各学校での取組をふるさと教員同士で実践交流もしています。

成功のヒケツ③
栄養教諭や和気町栄養改善推進委員と連携地域人材の参画促進

ふるさと料理教室は栄養教諭や栄養改善推進委員と連携して行っています。

栄養教諭は学校給食も担当しています。栄養改善推進委員は町民の健康づくりの基盤をなす栄養や食生活の改善を図るため、町の行う施策の推進に協力するとともに栄養改善の啓発、実践活動を行っています。その専門性を生かし、メニューや栄養等について協議する場を設け、協働してよりよい教室にしようとしています。また、参加親子との交流を図っています。

日ごろから重視している地域の優れた人材のネットワークを生かすことができています。

プログラム

【本時の計画】

活動名：ふるさと料理教室　すももクレープ、おいしくできるかな♪

１　ねらい・目指す子どもの姿

・地域の題材（場所・人材・もの）を活用した、休日における体験活動や学習を通して、自己判断力と実行力を養うとともに、ふるさとの良さを再発見させ、誇りをもたせる。また、他学区の児童と交流を図る。
・地域の方との協力を通して、地域の教育力向上を目指すとともに、地域全体で児童を育てる土壌を育成する。
・保護者参加を募ることにより、子ども塾での児童の様子を知ってもらい、かつ、保護者間にも新しいつながりができることをねらう。

２　日時　平成２６年７月５日（土）９：００～１２：００

３　主催　和気町教育委員会、　＜年間９回＞
　　公益財団法人　岡山県学校給食会
　　後援　和気町栄養改善推進委員

４　場所　和気町　学び館「サエスタ」

５　対象　和気町内小学生児童・保護者

成功のヒケツ②

６　講師・連携先
　　和気町ふるさと教員５人、栄養教諭１人、学校栄養技師１人、
　　和気町栄養士１人、和気町栄養改善推進委員３人

成功のヒケツ③

７　日程・内容・準備物

	活動内容	気をつけること	準備物
１	和気町特産品のすももを使った料理を作る。 ①すももジャム ②すももジャムクレープ ③とうふ団子のすももソースかけ ④すももヨーグルトスカッシュ	・グループごとに楽しく料理できるように雰囲気作りに心がける。 ・料理をする中で特産のすもものよさがわかるようにコミュニケーションをとる。 ・すももや和気町のよさがわかるように特徴あるクイズをする。 ・料理作りの班と食べる班を同じにすることにより、料理作りを振り返りながら食べられるようにする。	すもも料理材料・道具
２	料理を食べる。		食器
３	すもものクイズをする。		クイズ

成功のヒケツ①

感想

低学年児童Ａ：すももが有名なことがわかりました。
高学年児童Ｂ：すももで、こんなにいろいろなおいしいものが作れることがわかりました。
保護者Ａ：すももジャム作りで皮をむかないことで色よく、風味よくなることがわかりました。
保護者Ｂ：子どもたちが料理をいっしょに作ることで、今日初めて会った子どもとも相談したりなかよくなっていく姿を見ることができてよかったです。

問合せ先：和気町教育委員会　社会教育課（学び館「サエスタ」内）
０８６９－８８－９１１０　ふるさと教育係

実践事例（３）

美咲町
のびのびサタデー

成功のヒケツ①

のびのびサタデー実行委員会の設置

　のびのびサタデー実行委員会を立ち上げ、コーディネートを含む本事業すべてを行っています。ＰＴＡではなく、任意の団体です。
　協議内容は活動ごとの反省と次の計画の打合せです。月１回程度・年間通じて活動しています。活動の際は町バスが利用できます。

のびのびサタデー実行委員会構成メンバー
コーディネーター、ボランティア、
美咲町立旭小学校長・教頭。

成功のヒケツ②

子どもと大人のつながり・保護者・中学生の参画

　子どもだけでなく、子どもと大人がいっしょに活動することができており、子どもも大人も楽しんで活動しています。集まった大人が一つのチームのようになって率先して活動に参加していて、地域のつなぎの場となっています。
　参加者の小学生にプラスして中学生が参画しています。宝さがしの宝を砂浜にうめたり、小学生の泳ぎの補助をしたりして、活躍しています。ボランティアとして動くとともに、自分たちも大いに楽しんでいます。
　大人が協力的で積極的にごく自然に運営をしています。ビーチフラッグのスターターや料理作りなどできることはだれからともなく自然と行う雰囲気ができています。

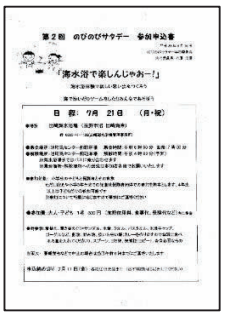
成功のヒケツ③

多様な体験

　子どもたちの価値ある居場所づくりのため、子どもたちが地域の人たちと一緒になって活動できる様々な体験活動を企画・運営しています。
　土曜・日曜・祝日を利用して、まきばウォーキング・１日消防士体験・スキー体験・プラネタリウム・科学実験体験・小坊主体験・餅つき・しめなわ作りなど年間８回程度行っています。
　それぞれの体験活動に適した講師や場所の選定をしています。防災に関する学習を取り入れるなど活動内容は毎年新たに更新できるようにしています。

【本時の計画】

プログラム

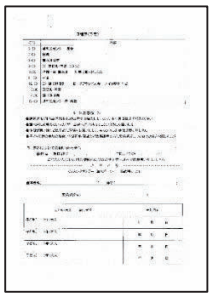


活動名：『のびのびサタデー』
海水浴で楽しんじゃおー！

１　ねらい・目指す子どもの姿
　子どもと大人が交流し、様々な体験活動を行うことを通して、地域の子どもの居場所づくりを行う。

２　日時　平成２６年7月２１日（月・祝）６：５０～１６：００

３　主催　のびのびサタデー実行委員会



４　場所　玉野市　渋川海岸　渋川海水浴場

５　対象　美咲町立旭小学校児童、保護者、
　　美咲町内中学生

６　講師・連携先
　　地域住民・のびのびサタデー実行委員会

成功のヒケツ①

７　日程・内容・準備物

	活動内容	気をつけること	準備物
１ ２ ３	海水浴をする。 ・砂浜で宝さがし ・ビーチフラッグ大会 ・スイカわりなど 昼食（カレーライス）を食べる。 海水浴をする。	・海で泳ぐ際には、中学生と大人は、担当の子どもを決めて見守ることで安全に万全を期する。 ・交通手段：町バスを利用する。	宝さがし・ビーチフラッグ・スイカわりグッズ

成功のヒケツ②

成功のヒケツ③

感想

保護者Ａ：キャンプ、水泳等で子どもとコミュニケーションをとっている。楽しい。大人が楽しくないといけない。大勢で来ることができる。実行委員会が月１回程度あるが、大人だけで懇親会（飲み会）をしている。

保護者Ｂ：子どもも大人も楽しんで活動している。大人が一つのチームのようになって率先して活動に参加していて、地域のつなぎの場となっている。中学生も参加していて、宝探しの宝を砂浜にうめたり小学生の泳ぎの補助をしたりして活躍している。ボランティアとしてだけでなく、自分たちも楽しんでいる。

問合せ先：のびのびサタデー実行委員会　事務局
（美咲町立旭小学校）０８６７－２７－３００１

実践事例（４）

里庄町
里庄町暁天座禅

成功のヒケツ①
３０年を超える伝統

　本事業は里庄町伝統の行事で、３０年を超える歴史があります。
　里庄町武道館で行われ、早朝６：００～７：００の１時間、講話を聴いたり座禅を行います。里庄町内小中学校の児童・生徒１３２名中１２０名以上、９割を超える参加があります（平成２６年度）。
　座禅にふさわしい立派な武道館で里庄町の子どもたちは毎年たくましく成長しています。

成功のヒケツ②
町が一体となった全体での取組

　本事業は町が一体となって取り組んでいます。コーディネートは里庄町教育委員会が行っています。
　座禅は曹洞宗東林寺　越海暢芳　住職が講師を務めています。４日間毎日講話があり、教育長・小中学校長・越海住職が子どもたちのために話をします。講話は小学校・中学校の児童・生徒に適した内容であり、各講師が思いを込めた、子どもたちの心に響く講話となっています。
　あいさつは町長・町議会議長などが行い、町全体で子どもたちをよりよく育てていこうとする思いがよく伝わってきます。

成功のヒケツ③
４日間にわたる講話と暁天座禅

　夏休みの始まりで、生活のリズムを整えることに役立っています。
　また、生活のリズムだけでなく、気持ちを整えることにも大いに役立っています。４日間にわたる教育長・小中学校長・住職の話を聴くことは、普段味わえない、貴重な機会となっています。
　講話や座禅では真剣なまなざしで一生懸命に話を聴く小学校１年生から中学校３年生までの子どもたちの姿があります。早朝から充実した時間を過ごすことができています。保護者の一般参加も増えています。

【本時の計画】

プログラム

成功のヒケツ①

活動名：里庄町暁天座禅

１　ねらい・目指す子どもの姿

夏休みはじめの生活のリズムを整えるとともに、気持ちを整える。

２　日時　平成２６年７月２３日（水）　６：００～７：００

＜夏休み中連続４日間＞

３　主催　里庄町教育委員会

４　場所　里庄町武道館

成功のヒケツ③

５　対象　里庄町内小学校児童・中学校生徒、保護者

６　講師・連携先

越海暢芳住職（曹洞宗東林寺）　里庄町内小学校・中学校

７　日程・内容・準備物

	活動内容	気をつけること	準備物
	（２日目）		
１	○講話　杉本秀樹教育長 （３０分）	・落ち着いた環境の中で行えるような雰囲気づくりを行う。 ・子どもたちが自分たちのよさが実感できたり新たな希望が持てるような話を行い、意欲的に座禅が行えるようにする。	ざぶとん
２	○座禅　越海暢芳住職 （曹洞宗東林寺） （３０分）	・越海暢芳住職の指導により心身が充実できるような座禅を行う。	

成功のヒケツ②

感想

担当者：小中学生にとっては生活リズムが崩れやすい長期休み開始の４日間に実施することで、休みのいいスタートになっていると感じています。児童・生徒からのアンケートでも、「早起きは大変だったけど、心が引き締まり集中力がついた。」という意見が多く、休みのはじめから早起きや気持ちの切り変えを習慣づけることで、休みを有意義に過ごせているように感じられました。加えて、３０年も続く事業となっているため暁天座禅に参加していた方が保護者となり、子と一緒に参加する世帯も増えてきました。そういった世代間のつながりも感じられつつあります。
今後も伝統を残し、里庄町の歴史を創っていきたいと思います。

問合せ先：里庄町教育委員会　０８６５－６４－７２１２

実践事例（５）

早島町
はやしま国際塾

成功のヒケツ①
はやしま学の創設

早島町では学校と地域で町民と共に町の歴史を学び、未来を考えるはやしま学を創設し、地域を愛し、地域の発展を願う子どもの育成に取り組んでいます。

はやしま学は地域とつながるプロジェクト（地域理解）と未来とつながるプロジェクト（国際理解）からなります。

はやしま学は学校教育だけではなく、社会教育においても実施しています。生涯にわたって早島町について学ぶ機会を保障することで早島町について学び続け、早島町を愛し続ける町民を育てます。

成功のヒケツ②
早島町学校教育ビジョンの策定
はやしま学支援本部の設置

早島町は国の動向に対応し、中期的な見通しをもって学校教育を中心とした町独自の教育政策・教育実践を推進できるように、早島町学校教育ビジョン検討委員会をつくり、「早島町学校教育ビジョン」を策定しました。また、はやしま学支援本部を設置し、はやしま学推進のためのコーディネートを行っています。

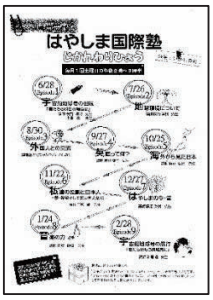
はやしま学支援本部メンバー
学校教育課・生涯学習課
教育支援コーディネーター

成功のヒケツ③
対象を中学校２・３年生に焦点化

この塾は内容を高度なものに設定しているため、参加対象を中学校２・３年生に限定しています。

参加対象を限定することで内容を焦点化し、よりよい学びにつなげています。

また、立派な古民家を利用した建築物「早島いかしの舎」で行い、早島町の特徴を生かした雰囲気の中で学習を展開しています。



プログラム

【本時の計画】

活動名：はやしま国際塾

１　ねらい・目指す子どもの姿

　日本や世界で活躍している方々の講演を聴いたり体験したり交流したりすることにより、世界に関する理解や国際的な感覚を身に付ける。

２　日時　平成２６年７月２６日（土）１４：００～１５：３０
＜年間９回＞

３　主催　早島町教育委員会
（はやしま学支援本部）

４　場所　早島町・いかしの舎

５　対象　早島町立早島中学校　第２・３学年生徒、一般

６　講師・連携先
早島町にゆかりのある人

７　日程・内容・準備物

成功のヒケツ①

成功のヒケツ②

成功のヒケツ③

	活動内容	気をつけること	準備物
1 2 3	世界を学ぶ国際理解講座 開会 沖垣塾長 5 minutes speech 講演 「地球温暖化の現状」 講師：関谷洋輔 （早島町教育委員長、前岡山県環境保全事業団理事長） 世界のお菓子の試食 閉会	○地球温暖化の現状がわかるように、次の事項を中心に講義を聴く。 ・自己紹介 ・環境変化をうかがわせる事象 ・地球気温の変化データ ・温暖化の原因 ・温室効果ガスはなぜ増加 ・対策 ○世界が身近に感じられるように、お菓子の実物を食べながら、食文化などの解説を受ける。	地球温暖化の現状がわかる資料・データ

感想

生徒Ａ：地球温暖化は世界中のみんなが協力しないと防げないものなんだなと改めて思いました。
生徒Ｂ：地球温暖化を止めるために小さなことでも進んでやろうと思いました。
生徒Ｃ：私が少しでも節電することで世界の温暖化を防ぐことができるので、家の人にも話して家族で節電したいなと思いました。
生徒Ｄ：温暖化によって苦しんでいる人が一人でもいるから、世界中で協力しなければならないと思いました。

問合せ先：はやしま学支援本部（早島町教育委員会）
０８６－４８３－２２１１

実践事例（６）

矢掛町
夏休み学習会

成功のヒケツ①
自学・集中して学習する環境づくり

　矢掛町教育委員会では、夏休み中の生徒の学習意欲と学力の一層の向上を図るため、夏休み学習会を行っています。
　苦手な教科の克服や夏休みの宿題をやり遂げるチャンスとなっています。
　中学生が自分でドリル・ワークなどの課題を持参して学習するのが基本です。子どもたちは課題に真剣に向き合い、集中して学習を進めることができています。友達と共に学習する時間と場が設定されており、「友達も一生懸命頑張っているので、自分も頑張ろう」という雰囲気ができています。

成功のヒケツ②
推進員の存在

　この学習会では推進員の存在が重要です。
　推進員がいることで見守られている安心感があり、困ったら教えてもらえる、集中してやらなければという雰囲気に自然となっています。

推進員・・・矢掛中学校で活動している支援員（特別支援教育支援員、適応指導教育指導員を含む）が行います。

成功のヒケツ③
夏休み期間６日間

　この学習会は夏休み期間の６日間行われています。８月上旬の２日間と盆明けの４日間です。午前９時～１２時という長時間にわたって行われます。学校の授業と同様に集中して行えるよう、時間は５０分単位にしています。たっぷりの時間設定で、充分に学習できるようにしています。また、保護者もこの学習会への参観が可能です。
　なお、公民館では小学生を対象に夏休み学習会や漢字検定に向けての土曜学習会も行っています。

プログラム

【本時の計画】

活動名：夏休み学習会

１　ねらい・目指す子どもの姿
　　夏休み中の生徒の学習意欲と学力の一層の向上を図る。

２　日時　平成２６年８月１９日（火）９：００～１２：００
　　＜夏休み期間中６日間（８月５・６・１９・２０・２１・２２日）＞

３　主催　矢掛町教育委員会

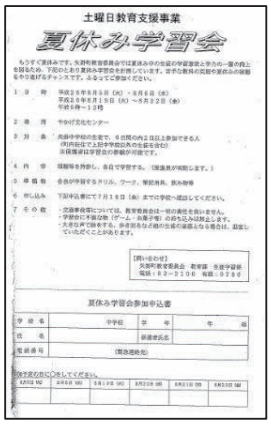
４　場所　やかげ文化センター

５　対象　矢掛中学校生徒

６　講師・連携先　推進員６名

７　日程・内容・準備物

成功のヒケツ③


土曜日教育支援事業
夏休み学習会

	活動内容	気をつけること	準備物
１ ２	自分で課題を持参して学習する。 時程 ①　９：００～　９：５０ ②１０：００～１０：５０ ③１１：００～１１：５０ 片付け解散	・推進員 ※場所 １年生：リハーサル室 ２年生：視聴覚室 ３年生：矢掛高等学校 ・集中して学習できるように学年ごとに会場を分ける。 ・通常の学校の授業と同様の雰囲気で学習が行えるように５０分単位とする。 ・推進員が常駐することで生徒からの質問などに対応できるようにする。	各自が学習するドリル、ワーク

成功のヒケツ①

成功のヒケツ②

感想

２年生徒：家ではあまり集中できなくて、勉強が進まなかったけど、この学習会ではみんなが集中してがんばっているので、自分もがんばることができました。友達ともいっしょに学習することができて、よかったです。来年も参加しようと思いました。

３年生徒：図書館や矢掛高校など落ち着いた雰囲気の場所で、みんなも勉強しているという環境の中ででき、とても進んだ。

保護者　：夏休みの宿題がぎりぎりなのに、この学習会でゆとりをもってできるようになった。

問合せ先：矢掛町教育委員会　教育課　生涯学習係
０８６６－８２－２１００

実践事例（７）

美咲町
ホリデーわくわく
（合宿）

成功のヒケツ①
ホリデーわくわく実行委員会の設置

本事業を進めるに当たって、ホリデーわくわく実行委員会を設置しています。メンバーは次のとおりです。

実行委員会の構成メンバー
役員２名（公民館館長）、コーディネーター、ボランティア、学生ボランティア（美作大学学生）、保護者（２名）、学校（校長・教頭・地域連携担当）、ＰＴＡ会長

成功のヒケツ②
大学生との連携・学生ボランティア

本事業は大学生と連携して行っています。小学校・幼稚園・保育士を志望している美作大学児童文化研究部１３名がボランティアとして参加しています。

ボランティアはこの合宿をはじめ、年間を通して『ホリデーわくわく』に関わっています。大学生の発想や企画運営力を生かして持続的に参画する仕組みができています。

実施に当たっては、コーディネーターの山下さんと部長・副部長・会計担当が何度も打合せを行い、班分けを含む大学生の担当するレクリエーションの企画運営を行っています。

成功のヒケツ③
コーディネーター・ボランティア（保護者）・栄養委員との連携

コーディネーターとボランティア（保護者）・栄養委員は普段からいろいろな会で顔を合わせることが多いです。つながりも深く、この事業についてもスムーズに進めることができています。普段からの結びつきがポイントです。

プログラム

【本時の計画】

活動名：『ホリデーわくわく』（合宿）

１　ねらい・目指す子どもの姿

　合宿を通して、学力向上を図るとともに、体験活動やレクリエーション等で交流を深める。

２　日時　平成２６年８月１９日（火）２０日（水）＜２日間＞

３　主催　『ホリデーわくわく』実行委員会

４　場所　農村型リゾート南和気荘（久米郡美咲町）

５　対象　美咲町立柵原東小学校児童

成功のヒケツ①

６　講師・連携先

ホリデーわくわく実行委員会役員２名（公民館館長）、コーディネーター１名（山下裕美さん）、ボランティア１名（参加児童の保護者：岩崎さん）、ボランティア１３名（美作大学児童文化研究部。小学校・幼稚園・保育士を志望）、栄養委員１名

成功のヒケツ③

７　日程・内容・準備物（１日目）

	活動内容	気をつけること	準備物
1	８：３０～１０：３０ 班分け・学習（夏休みの宿題、自主学習）	・交流が深められるように班単位で活動する。 ・ボランティア一人一人が受け持つ子どもを決めて教えることで、結びつきを強めながら進められるようにする。 ・大学生の発想や企画運営力を生かして進めるようにする。	料理の材料 食器
2	１０：３０～１３：３０ 昼食（飯ごう炊飯：カレー・サラダ）		
3	１４：００～１４：５０ 学習（夏休みの宿題、自主学習）		
4	１５：００～１６：００ レクリエーション		レクリエーション用具
5	１６：３０～１９：００ 夕食（竹ごはん、豚汁、サラダ） 風呂・ハガキを書く		
6	19：３０～21：００ 星の観察（さつき天文台）		

成功のヒケツ②

感想

○学生ボランティア：「子どもと接する際の対応のしかたが勉強になる。」

○ボランティア：「関わってから３年目。５年女子、２年男子の保護者だが、毎週『ホリデーわくわく』に欠かさず参加している。学習も体験活動もいろいろな経験をさせたい。どの活動も参加しないと経験できないことばかり。子どもにとって来て得になる活動ばかり。来てみてよかった。あー、おもしろかった。と毎回思う。土曜なので、参加する前には家でゆっくりしたいと思うが、参加して帰るころには、あー、来てみてやっぱりよかったと思う。いろんな地域の方にも出会えるし、お母さん自身もこの地域の伝統文化にふれさせてもらえて、いいと感じている。」

問合せ先：美咲町教育委員会　教育総務課
０８６８－６６－２８７３

実践事例（８）

赤磐市
吉井土曜子ども教室

成功のヒケツ①
地域に活動の場をつくる

　子どもたちの活動とかかし祭り・赤磐祭り・城山公園祭りなど地域の活動をうまく結びつけ、子どもたちの活動の場を作り、盛り上げています。
　傘踊り・黒猫のタンゴなどの民舞・ダンスやかかしづくりなどを子どもたちは祭りでの発表という目標をもちつつ、楽しみながら活動することができています。

成功のヒケツ②
教育活動推進員・教育活動サポーターの活躍

　本事業では教育活動推進員・教育活動サポーターを位置付け、活動を進めています。教育活動推進員は事業の企画から実施まで全てをコーディネートする役割、教育活動サポーターは活動推進員を支える役割を担っています。
教育活動推進員・・・谷村裕子さん：平成１５年から踊りなどを地域の子どもたちに教えています。学校評議員をされているので、学校公開日などの行事に参加し、学校と情報交換しやすいことも利点です。
教育活動サポーター・・・平尾妙子さん、
谷村文貴さん

成功のヒケツ③
子どもの活動が継続する雰囲気づくり

　幼稚園や小学校１年生から何年にもわたり、継続している子どもが多いです。楽しい活動内容とともに、アットホームで温かく、活動が楽しめるような雰囲気作りができています。小学校のころに来ていた子どもが大学生になって手伝ってくれることもあります。

プログラム

【本時の計画】

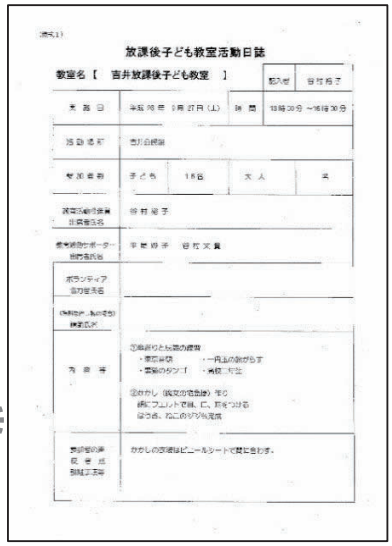
成功のヒケツ①

活動名：吉井土曜子ども教室

1　ねらい・目指す子どもの姿

　かかし祭りにむけて、傘踊り・黒猫のタンゴなどの民舞・ダンスの練習やかかしづくりを楽しみながらすることができる。

2　日時　平成２６年１０月４日（土）
　　１３：００～１６：００
　　＜毎週土曜日＞


放課後子ども教室活動日誌

3　主催　赤磐市立吉井公民館

4　場所　赤磐市立吉井公民館

5　対象　赤磐市立城南小学校児童
　　・幼稚園児

成功のヒケツ②

6　講師・連携先
　教育活動推進員・教育活動サポーター
　かかしまつり実行委員会

7　日程・内容・準備物

	活動内容	気をつけること	準備物
1	傘踊りと民舞の練習をする ・一円玉の旅がらす　・東京音頭 ・黒猫のタンゴ　・高校三年生	・子どもたちが意欲的に活動できるように踊り・民舞のポイントを意識させたりよくできていることをほめたりしながら進める。	踊り・民舞の道具 かかしの材料
2	かかし（魔女の宅急便）を完成させる	・子どもたちの力で完成できる程度の下準備をしておく。	
3	作ったかかしをかかし祭りの会場（吉井川沿い堤防）に設置する	・かかし祭りへの意欲が高まるように、作ったものをみんなで設置しに行く。	

成功のヒケツ③

感想

子どもたち：「踊りが大好きで、楽しい。踊りの後のスポーツ遊びも友達として、なかよくできるので、楽しい。」

問合せ先：赤磐市教育委員会　社会教育課　０８６－９５５－０７８３

実践事例（９）

勝央町
英語で遊ぼう！
しょうおうキッズ

成功のヒケツ①

参加者が楽しみながら学ぶ活動を積極的に展開

　勝央町では参加者が楽しめる活動を積極的に展開しています。本事業もその一つです。
　外国の風習を取り入れたイベントを体験し、子どもたちが気軽に英語に親しむことを目的として開催しています。
　開催に当たっては、英語を得意とするボランティアの協力を得て、遊びながら外国文化を学び、コミュニケーションできる基盤を養えるようにしています。

成功のヒケツ②

英語を得意とするボランティアの参画

地域の英語塾講師・小中学校ALT（外国語指導助手）・留学経験のある地域住民・英語が好きなボランティア

　開催に当たって多くのボランティアが参画しています。勝央町内の小中学校で英語授業の支援にあたるＡＬＴを中心に、町内の英語塾講師など本事業の中で目を見張るほどの大活躍です。
　事前に企画・打合せを重ね、英語の発音・音楽・クイズ、英語を使ったやりとりなど、参加者が大いに楽しめる内容にしています。

成功のヒケツ③

保護者の参画促進
子どもと保護者が
ともに楽しめるイベント

　本事業は子どもと保護者がともに楽しめるイベントで保護者が参画できるものとなっています。
　アットホームな雰囲気でハロウィンの衣装に身を包んで、クイズの問題ボードを持ったり英語の発声をしたりグループや親子で考える時間をもつ等、楽しみながら学び、参画することができます。

プログラム

【本時の計画】

活動名：英語で遊ぼう！しょうおうキッズ「ハロウィン」

平成26年度
英語で遊ぼう！しょうおうキッズ
主催：勝央町教育委員会

勝央町教育委員会では、
外国の風習を取り入れたイベントを体験し、子どもたちが気軽に英語に親しむことを目的として「英語で遊ぼう！しょうおうキッズ」を開催します。
勝央町内の小・中学校で英語授業の支援に当たるＡＬＴ（外国語指導助手）、アスダラ・ハバル先生を中心に、町内の英語講師にご協力をいただき、遊びながら外国文化を学びませんか？みなさまのご参加をお待ちしています。

【主　催】勝央町教育委員会
【対　象】町内在住の小学１年生～４年生
【募集人員】子ども３０名
※定員になり次第、締め切ります。
【参加料】・参加費２，８００円（保険料800円込）
・同伴の保護者で保険加入希望者は800円（任意）

【活動日及び活動内容（予定）】

	開催予定日	イベント	活動場所
第１回	６月　７日（土）13:30～15:30	開講式 イングリッシュアクティヴィティ	勝央町公民館
第２回	７月１２日（土）10:00～13:00	アメリカンBBQ	未　定
第３回	１０月　５日（日）10:00～12:00	ハロウィン	勝央町公民館
第４回	１２月２１日（日）10:00～12:00	クリスマス	勝央町健康福祉センター
第５回	２月　１日（日）13:30～15:30	バレンタイン	勝央町公民館

※活動日及び内容は、変更する場合があります。
※時間や集合場所、持参物などの詳しいことは、開催日前にお知らせします。

【応募締切】平成２６年５月２３日（金）
※受講料を添えて、直接、勝央町公民館へお申し込みください。
※定員になり次第締め切ります。
【問合せ先】勝央町公民館（☎38－1753、FAX 38－2580）

平成26年度「英語で遊ぼう！しょうおうキッズ」参加申込書

ふりがな 氏名	（　才）	学年	小　年	男・女
住所	勝央町	電話番号 / 緊急連絡先		
アレルギー	無・有（ ）	保護者氏名		保険加入 有・無

受付：　／　　受付者：　　受講料：領収済・未納

１　ねらい・目指す子どもの姿

○遊びの中で楽しみながら英語にふれる。
○異文化行事を学び体験し、外国への関心を育てる。
○コミュニケートするための基盤をつくる。

２　日時　平成２６年１０月５日（日）
１０：００～１２：００
<年間５回>

成功のヒケツ①

３　主催　勝央町教育委員会

４　場所　勝央町公民館

５　対象　勝央町内在住の子ども・保護者

６　講師・連携先

スタッフ：公民館職員３名、講師３名（勝央町ALT、ケンゾウさん：町内英語塾経営、ヒロコさん：社会福祉協議会職員・オーストラリアで日本語講師経験あり）、他サポーターボランティア２名（英語好き・留学経験あり）

成功のヒケツ②

７　日程・内容・準備物

	活動内容	気をつけること	準備物
１	ハロウィン ①仮装衣装着て集合（大ホール）歌を歌う スタッフ紹介 ②ハロウィンについて知る ③ハロウィンに関する単語について知る ④ハロウィンについての三択クイズ ⑤「トリック・オア・トリート」と英語で言って３つの部屋をまわり、お菓子をもらう ⑥お菓子まき ⑦歌を歌う 成功のヒケツ③	・ハロウィンを楽しめるように各自が用意した衣装で参加するようにする。 ・スタッフも衣装を身にまとったり楽器の演奏をしたりして雰囲気作りを行う。 ・「ハッピーハロウィン」「トリック・オア・トリート」など気軽に英語に親しむ場面を設ける。	衣装 ハロウィンに関するカード・クイズ・お菓子

感想

保護者Ａ：季節の行事で、各家庭ではなかなかできないが、ここだと経験できる。雰囲気が楽しめてよい。英語が身近に感じられ、日本人だけでなく、外国の先生に教えてもらえることがよい。子どもも楽しみにしている。
保護者Ｂ：イベントなので、喜んで参加できる。日本人にとってなじみのある行事で、参加しやすい。英語に親しみを感じられる。興味がもてる。いい取組で続けてほしい。
子ども　：楽しい。がんばってやると、ごほうびがもらえる。（今日のお菓子）

問合せ先：勝央町教育委員会　０８６８－３８－１７５２・１７５３

実践事例（１０）

笠岡市
大井公民館土曜学習

成功のヒケツ①

公民館・保育園・小学校の連携

本事業は大井公民館と若竹保育園が相談して、開始しました。

若竹保育園は地域にある保育園で、公民館・保育園・小学校の三者の関係はお互いに密着した関係です。

以前は月２回行っていましたが、小学生の応募が多く、毎週土曜日に行うことになり、現在もその状況が続いています。

成功のヒケツ②

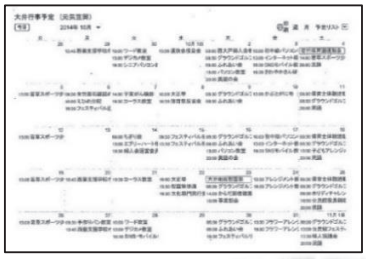
小学生が保育士の仕事を体験

園児は１才～５才。

平日は１００名を超える園児数ですが、小学生が参加する土曜日は約５０名が登園します。

保育士が体験できる対象は大井小学校児童５・６年生です。一人の小学生が保育園児としっかりふれあえるように定員は毎回５名としています。

９：００～１２：００まで園児とたっぷり遊んだり昼食やそうじの世話などを体験したりしています。小学生は園児の動きや気持ちの状態に心を配りながら活動することができています。



成功のヒケツ③

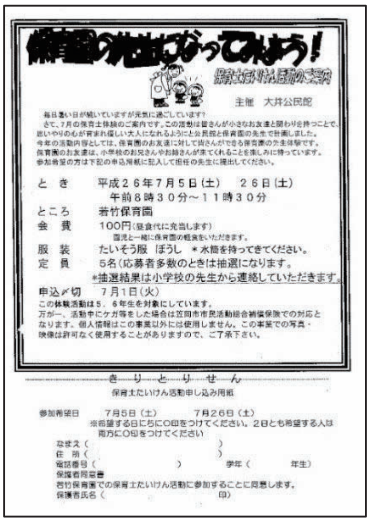
コミュニティカレンダーの発行

地域の方々が情報共有できるように、大井公民館では『大井地区コミュニティカレンダー』を発行して公民館・保育園・小中学校等の情報を全戸に提供しています。このカレンダー共有は三者の連携・つながりの象徴です。

プログラム

【本時の計画】

活動名：大井公民館土曜学習


保育園の先生になってみよう！
保育士たいけん活動のご案内
主催　大井公民館
毎日暑い日が続いていますが元気に過ごしていますか？
さて、7月の保育士体験のご案内です。この活動は皆さんが小さなお友達と関わりを持つことで、思いやりの心が育まれ優しい大人になれるようにと公民館と保育園の先生で計画しました。
今年の活動内容としては、保育園のお友達に対して皆さんができる保育園の先生体験です。
保育園のお友達は、小学校のお兄さんやお姉さんが来てくれることを楽しみに待っています。
参加希望の方は下記の申込用紙に記入して担任の先生に提出してください。
とき　平成２６年７月５日（土）　２６日（土）
午前８時３０分～１１時３０分
ところ　若竹保育園
会費　100円（昼食代に充当します）
園児と一緒に保育園の給食をいただきます。
服装　たいそう服　ぼうし　＊水筒を持ってきてください。
定員　5名（応募者多数のときは抽選になります。
＊抽選結果は小学校の先生から連絡していただきます。
申込〆切　７月１日（火）
この体験活動は５、６年生を対象にしています。
万が一、活動中にケガ等をした場合は笠岡市市民活動総合補償保険での対応となります。個人情報はこの事業以外には使用しません。この事業での写真・映像は許可なく使用することがありますので、ご了承下さい。
きりとりせん
保育士たいけん活動申し込み用紙
参加希望日　7月5日（土）　7月26日（土）
※希望する日にちに○印をつけてください。２日とも希望する人は両方に○印をつけてください
なまえ（　　）
住所（　　）
電話番号（　　）　学年（　　年生）
保護者同意書
若竹保育園での保育士たいけん活動に参加することに同意します。
保護者氏名（　　印）

1　ねらい・目指す子どもの姿

　小学生が保育園児と関わりをもつことで、思いやりの心が育まれ優しい大人になれるように、いっしょに遊んだり給食やそうじのお世話をしたりする等の保育士の体験をする。

2　日時　平成２６年１０月１１日（土）
　　　　９：００～１２：００ ＜毎週土曜日＞

3　主催　大井公民館・私立若竹保育園

4　場所　笠岡市・私立若竹保育園

5　対象　笠岡市立大井小学校第５・６学年児童

6　講師・連携先　私立若竹保育園職員の方々

7　日程・内容・準備物

	活動内容	気をつけること	準備物
1	大井小学校５・６年児童４名が保育士の仕事を体験する。 ８：３０～１１：００ いっしょに遊ぶ。 １１：００～１２：００ 給食をいっしょに食べる。 （スパゲティーミートソース他：公民館から補助1人１００円） そうじをする。 片付け等をする。　成功のヒケツ②	○園児と小学生がたっぷり楽しめるように活動は次のものを想定している。 ・内容は小学生と園児がいっしょに遊ぶ＜おにごっこ・おんぶ・だっこ・てつぼう・三輪車・ブランコ等遊具・虫取り（かなへび・かえる・バッタ）＞ ・給食（手の消毒・お茶等） ・そうじ等 ○職員も園児と小学生の様子を見守りながらいっしょに遊ぶ。	遊具 給食

感想

6年女子A：初めて参加した。いっしょに遊んで楽しい。ちっちゃい子がかわいい。
6年女子B：３回目の参加。楽しい。ちっちゃい子がすき。
6年男子：ぼくはここの卒園生で、２回目の参加。たいへんだけど、楽しい。外で遊ぶのが楽しい。
5年女子：５・６回目の参加。楽しい。弟が園児でここにいる。将来は保育士になりたい。

園長先生：異年齢でふれあえる。大きい子・小さい子、どちらにもメリットがある。小学生にとっては、リーダーシップをとるいい機会にもなるのではないか。小学生も園児も関係が深まる。信頼し合う中で、自尊心や自信がもてるようになるのではないか。
自発的に活動させるうちに、遊びを展開していってほしい。

先生：小学校５・６年生が、自身が兄弟がいない子でも５・６年生の時期に小さな子と接していると大人になったときによいのではないか。園児に一対一で関わってくれるので園としても喜んでいる。来てくれる小学生の中にはここの卒園生がいて、成長が見られてうれしく思っている。将来保育士を目指している子もいてくれて、うれしい。

問合せ先：笠岡市教育委員会　生涯学習課
０８６５－６９－２１５３、０８６５－６９－２１５５

実践事例（１１）

新見市
みんなで楽しく
ウォーキング！！

成功のヒケツ①
公民館長の活躍

本事業ではウォークラリーの体制作り・日程・ルート・ルール作りなど企画運営を公民館長が行い、コーディネーターの役割を果たしています。稲岡勝真唐松公民館長（兼唐松市民センター長）は館長４年目で、元小学校長です。

この唐松地区にあった唐松小学校で校長として２年間勤務の経験があります。唐松小学校が統合され、学校が遠くなったということから、この地域での子どもの活動を増やしたいという強い思いがあり、「エネルギーなるほど体験」「わくわく科学ランド」などの子どもが喜ぶ体験活動を展開しています。

成功のヒケツ②
地域のつながり

本事業は唐松公民館と唐松地域づくり推進委員会が主催しています。唐松地域づくり推進委員会は地域の各総代・団体の長で構成され、教育文化部・地域振興部・総務部・福祉部の各部があります。

地域のよさや歴史を感じたり、ふれあいを深める体験として大切にしているイベントで、２年目となる今年度は内容を変えて新鮮味を出しています。

成功のヒケツ③
保護者の参画促進

保護者には次のような願いがあります。

「学校が統合になって、子どもたちの声が地域から聞こえにくくなったように感じるので、子どもの声が聞けるような取組をしたい。学校では学べないことを体験してほしい。興味がもちやすい体験にできるよう考えている。」

そこで、公民館長とともに企画運営に参画し、子どもたちや地域の人が楽しめるイベントになるよう行動しています。

プログラム

【本時の計画】

活動名：みんなで楽しくウォーキング！！

1　ねらい・目指す子どもの姿

　地域めぐりウォークラリーを通して、唐松地区の歴史や文化にふれるとともに、参加者同士の交流を図る。

2　日時　平成２６年１１月２４日（月）（振替休日）

3　主催　唐松公民館・唐松地域づくり推進委員会

4　場所　新見市・唐松市民センター

5　対象　地区住民、幼児、保育所に行っている子ども、小学生、中学生

6　講師・連携先　唐松公民館・唐松地域づくり推進委員会

7　日程・内容・準備物

	活動内容	気をつけること	準備物
1	地域めぐりウォークラリー ・唐松地区を歩き、指示された７つのポイントで問題を考え、解答していくという競技。 （最終的に集まった７文字は並べ替えると唐松地区に存在するものになる。）	・グループごとに速さだけを目的にせず、ゆっくり楽しみながらウォークラリーできるように、問題の正解得点と時間得点（目標時間に近いほど高得点・時間得点：７１分）でグループごとに競い合うようにする。（成功のヒケツ①） ・５人１組（友達同士、サークルの仲間、家族などどんな組み合わせでもよい）でグループをつくることにより、交流を図りながら歩けるようにする。（成功のヒケツ②） ・参加者にはパンとジュースが渡される。子どもにはお菓子も。 第１位、第２位、第３位、飛び賞	ウォークラリー用紙 お菓子 パン ジュース

成功のヒケツ③

感想

保護者：「館長さん、いいのをしてくれる！」
中学生：「地域の活性化のために（笑）」
唐松地域づくり推進委員会・教育文化部部長：「小学校がなくなった（唐松小学校）ことで、地域を再発見する。ふれあいも深めたい。」
小学生６年男子の母親：「地域を我が子といっしょに歩いて、地域のいろいろなよさを見て回り、子どもといっしょに勉強したい。」
小学生：「楽しかった。」
地域住民：「子どもは子どもなりに、大人は大人なりに、このイベントを楽しんでいる。コミュニケーションがとれて楽しい。」
中学生３年男子５人：「いい運動になりました。」
小学校６年女子５人：「なかよしの５人で参加しました。楽しかったです。」

問合せ先：新見市教育委員会　生涯学習課　０８６７－７２－６１４７

４　成功のヒケツの整理

前ページまでの実践事例の中に、どのような成功のヒケツがあるのか、共通の観点を整理してみました。▽印は各実践事例の成功のヒケツです。

多様な体験

▽地域の特産品すもも
▽多様な体験
▽３０年を超える伝統
▽４日間にわたる講話と暁天座禅
▽夏休み期間６日間
▽地域に活動の場をつくる
▽小学生が保育士の仕事を体験

土曜日教育の大きな魅力の一つ、多様な体験に関する内容です。
普段の学校教育や家庭教育では味わえないようなものが土曜日教育では可能となります。まさに“あったらいいなを実現する夢の教育”になりえます。
参加者にとって魅力ある多様な体験を設定することが成功へのカギとなります。

連携

▽ボランティアと教職員と市町村担当者の連携
▽栄養教諭や和気町栄養改善推進委員と連携
▽大学生との連携・学生ボランティア
▽コーディネーター・ボランティア（保護者）・栄養委員との連携
▽公民館・保育園・小学校の連携
▽コミュニティカレンダーの発行

連携はプログラムを充実させるために不可欠な事項です。様々で有効な連携を行うか行わないかで、決定的な違いが出ることもしばしばあります。
有効な連携先を多様に知っていることは事業を進めていく上でとても大きな力となります。連携先を広げていくことは事業を進めていく者にとって喜びともなります。

組織

▽久米南町子ども応援運営委員会
▽のびのびサタデー実行委員会の設置
▽町が一体となった全体での取組
▽はやしま学支援本部の設置
▽ホリデーわくわく実行委員会の設置

事業を展開するに当たって組織づくりはとても大切です。
目指す子ども像や連携先の検討、年間計画・実施・評価、予算など様々なものを検討し、共有することによって、工夫・改善をくり返しながら事業を進めることができます。
多くの方々の参画により、県内外の情報に明るくなり、様々なアイデアが出てくることも期待されます。

目指す子ども像

▽ボランティアが関わることによる自己肯定感の向上
▽はやしま学の創設
▽早島町学校教育ビジョンの策定

目指す子ども像を共有することはとても大切です。目指す子ども像を明確にすることによって、内容や手立てもはっきりしてきます。

活躍

▽ふるさと教員の活躍
▽推進員の存在
▽教育活動推進員・教育活動サポーターの活躍
▽公民館長の活躍

多くの事業の成功をみてみると、そこには必ずキーパーソンが存在します。役割・立場は様々ですが、熱い思いをもち、子どもたちをはじめとする参加者の方々に喜んでもらおうと主体的に活動されています。同時にそのキーパーソン自身がとても楽しんで活動されている姿も印象的です。社会教育はやっぱり“人”なんですね。

新たな取組推進

▽参加者が楽しみながら学ぶ活動を積極的に展開

新たな取組を推進している実施主体は、その姿勢だけで成功を予感させます。
普段の事業に対する思いを大切にしたり様々な研修会に参加し、日々更新される情報に目を向けています。その姿勢は事業に勢いを生み、様々なものを活性化させます。

対象を焦点化

▽対象を焦点化、習熟度や一人一人に対応した指導
▽対象を中学校２・３年生に焦点化

参加対象を焦点化することにより、目指す子ども像や内容・手立てなどが明確になります。
さらに、焦点化された対象を具体的にイメージしながらの細やかな対応が可能となってきます。

参画促進・つながり

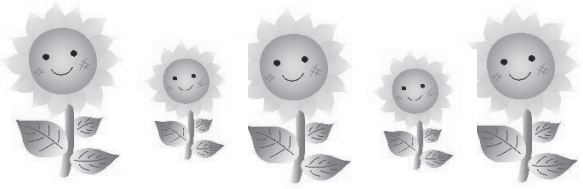
▽地域人材の参画促進
▽子どもと大人のつながり・保護者・中学生の参画
▽英語を得意とするボランティアの参画
▽子どもと保護者がともに楽しめるイベント
▽地域のつながり
▽保護者の参画促進

参画促進・つながりは事業の生命線です。
実践事例には、子ども・若者・大人・保護者・地域人材・ボランティアなど様々な参画促進・つながりがあります。
これからは特に若者の参画もクローズアップされてくると思われます。
多くの、そして、いろいろな立場の参画促進・つながりづくりを行い、事業の充実を図っていきたいものです。

雰囲気づくり

▽自学・集中して学習する環境づくり
▽子どもの活動が継続する雰囲気づくり

事業を展開していく中でペーパーには必ずしも表れないものですが、この雰囲気づくりは事業の成功にとってとても大きなものです。
コーディネーターやボランティアの方々が持っておられる熱い思いややさしい雰囲気、子どもたちを長い時間をかけて育てていこうとする気持ちなど、その事業の成功を決定づけるものとなりえます。



５　これからの展望

　これからの子どもたちの豊かな学びのための土曜日の教育環境づくりにおいて、次の二つの視点が大きなヒントになりそうです。

①企業等との連携

豊富な資源を子どもたちに！

　企業は資源の宝庫です。この資源を活用し、子どもたちの豊かな学びのために社会総掛かりで取り組んでいければと考えています。
　子どもたちにとって、すべての大人が先生です。地域の企業と子どもたちとの結びつきを考え、地域にある企業の豊富な資源を生かし、子どもたちに豊かな学びの場をつくっていきたいです。
　まず、地域にある親しみのある企業が思い浮かぶはずです。

　連携する企業の有効な見つけ方・・・口コミが有効なようです。研修会をはじめ、いろいろな会に顔を出し、信頼が置ける方から紹介していただくと広がってくるようです。

　連携を依頼する際には、企業が参画することのメリットを説明することも大切です。また、企業の側からも連携したいが、はじめは「何をどのようにすればよいのか、わからない」という企業もあるかもしれません。その企業の「この部分の力を借りたい。」ということを具体的に説明すればスムーズに進められます。コーディネーターさんにはぜひつないでいただきたいと思います。

②就学時前の子どもを対象とした教育支援

スムーズな橋渡し！

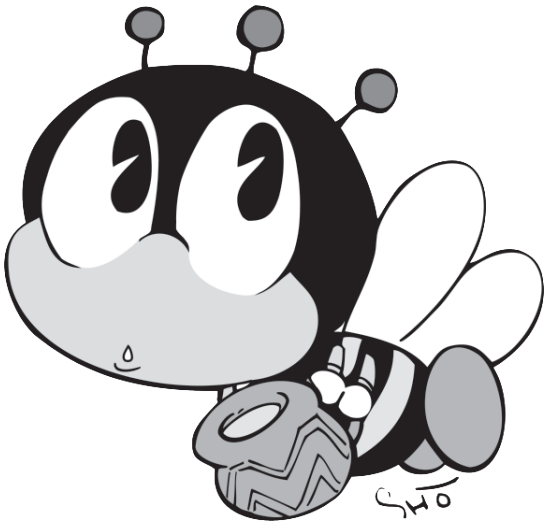
　地域人材やＰＴＡ、中学生・高校生・大学生等の参画を得て、小学校や公民館等を活用し、就学時前の子どもに楽しく集団で学べる学習機会を提供し、学ぶ楽しさや学校に馴染む場を実施することも大切な学びの場となります。
　この教育支援については各地域で就学前の子どもの保護者にどのような教育支援があればよいのか、意見を聞いてみるのも大切であると思います。ニーズに合ったものを準備できるとその支援はとても重要な意味をもってきます。

　これらのことに配慮しつつ、参加者の方々が自分に適した学習内容を選択できるように「土曜日ならでは」の多様なプログラムを設定し、豊かな環境づくりにつなげていきたいものです。

　取り上げた実践事例は「こんなにいい土曜日の教育が行われているんだ。」とすがすがしい気持ちになるものばかりです。
　これらのすばらしい実践が県下に広まっていくことが期待されます。

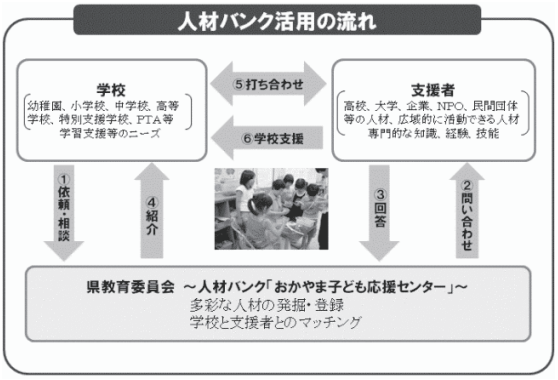
土曜日教育の可能性はとても大きいです。
関係者それぞれの立場で楽しみながら工夫し、
大いに盛り上げていきましょう。

資料



６　資料（１）
おかやま子ども応援センター「子ども応援人材バンク」

＜おかやま子ども応援センター「子ども応援人材バンク」をご活用ください＞



○「子ども応援人材バンク」は、学校が身近な地域では得られにくい人材や団体等を県広域に募集し、学校の応援団の充実を図ります。

○「子ども応援人材バンク」に登録する応援人材はボランティアとし、広域で活動する方を県ホームページに登録・公表し活用を促します。
（特定の学区等で活動する方の情報は、該当する市町村教委・学校へ提供します。）

＜企業との連携＞（敬称略）
株式会社マルイ、ナカシマプロペラ（株）、（株）ハウジング山陽、（有）ゆめパレットCorporation、株式会社ケイ・クリエイト「こやま薬局」、（株）リックコーポレーション、（株）岡山スポーツ会館（ＯＳＫスポーツクラブ）、旭化成ケミカルズ（株）水島製造所、株式会社トンボ、中国電力株式会社岡山支社、株式会社ベネッセコーポレーション、明和製紙原料株式会社、（株）岡山村田製作所、菅公学生服株式会社、株式会社いぶき、倉敷製帽株式会社、髙田織物株式会社、クラブン株式会社、とら醤油株式会社、株式会社ＮＴＴドコモＣＳ中国、ＫＤＤＩ株式会社

など

参考ＵＲＬ：http://www.pref.okayama.jp/site/16/275456.html

子ども応援人材バンクの登録団体等の情報、御登録申請、お問い合わせは・・・

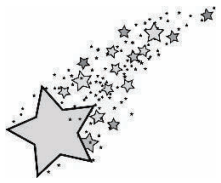
おかやま子ども応援センター

〒700－8570
岡山市北区内山下２－４－６（岡山県教育庁生涯学習課）
TEL：086－226－7597
FAX：086－224－2035
E-mail：kodomo-ouen@pref.okayama.jp

資料（２）
全国の土曜日教育支援・実践事例

全国には様々な先進的な実践事例があります。
文部科学省では、子供たちが社会で活躍する多くの大人に出会い、将来の夢や希望を持って学ぶ機会が充実するよう、多様な企業・団体・大学等に「土曜学習応援団」として賛同いただき、実社会での経験や企業・団体・大学等の強みを生かした出前授業を行っていただく取組を積極的に推進しています。
これらの多様な実践事例から大いに学び、参考にして実践していきましょう。

－文部科学省　土曜学習応援団－



▽金融会社によるグローバル人材を目指す講演
▽電機メーカーによるハイブリッドカー親子工作教室
▽掃除用具メーカーによるお掃除体験教室
など

＜企業・経済団体等との連携＞（敬称略）
アフラック、花王、カシオ計算機、キッコーマン、ゼンショー、ダスキン、凸版印刷、野村ホールディングス、損保ジャパン日本興亜ホールディングス、日興證券、パナソニック、ぴあ、チームスマイル、三菱商事、ニチイ学館、読売新聞社、朝日新聞社、中日新聞社、東洋ライス、日本経済団体連合会、日本貿易会、全国信用金庫協会、岐阜信用金庫など３６信用金庫、日本証券業協会、全国銀行協会、日本損害保険協会
など

＜団体＞（敬称略）
日本青年会議所、日本PTA全国協議会、全国高等学校ＰＴＡ連合会、ボーイスカウト日本連盟、全国子ども会連合会、日本レクリエーション協会、日本博物館協会、国立科学博物館、日本青年館、日本数学検定協会、ＮＰＯ日本語検定委員会、日本ニュース時事能力検定協会、日本舞踊協会、落語芸術協会、日本手芸普及協会、全日本ピアノ指導者協会、武士道剣会、おやじ日本、ＮＰＯ教育支援協会、日本学生社会人ネットワーク、ジュニアマナーズ協会、ＮＰＯアイデアツリーヒラメキ、「早寝早起き朝ごはん」全国協議会、危険学プロジェクトグループ８
など

（平成２６年１２月１７日現在）

参考ＵＲＬ：http://doyo.mext.go.jp　土曜学習応援団特設HP

土曜日教育支援　実践事例集

子どもたちの豊かな学びのための
土曜日の教育環境づくり
～「土曜日ならでは」の多様なプログラムづくり～

平成２７年３月

発行　岡山県生涯学習センター

〒700-0016　岡山市北区伊島町三丁目１番１号
TEL:086-251-9751（振興課）
http://www.pal.pref.okayama.jp/
https://www.facebook.com/okasyogaise